

# 印刷製本契約書

発注者 南 部 町

受注者 .....

上記当事者間において、番号 総印第2号 件名 広報なんぶちょう印刷業務 のため、次のとおり（ただし、第4条(A)、第15条(A)及び(B)を除く）契約を締結した。

（印刷製本の内容）

第1条 発注者は、次に掲げる印刷製本（以下「印刷製本」という。）を受注者に注文し、受注者は、これを請負した。

- （1）品 名 広報なんぶちょう
- （2）規 格 別冊仕様書のとおり
- （3）納品場所 南部町役場、健康センター、福地支所、南部支所、剣吉支所

（請負代金）

第2条 請負代金は、1頁当たり¥.....とする。

（うち消費税及び地方消費税の額 ¥.....）

「消費税及び地方消費税の額」は、消費税法第28条第1項及び第29条並びに地方税法第72条の82及び第72条の83の規定に基づき、契約金額に110分の10を乗じて得た額である。なお、消費税法等の改正等により消費税率に変動が生じた場合は、特段の変更手続を行うことなく、相当額を加減したものを契約金額とする。ただし、国が定める経過措置に該当する場合には、当該経過措置等の取扱いに従うものとする。

（業務期間）

第3条 業務期間は、令和8年4月1日から令和9年3月31日とする。

- 2 契約締結日から令和8年3月31日までを、本業務を適正に実施するための業務準備期間とする。ただし、業務準備期間に係る費用は、受注者の負担とする。

（契約保証金）

第4条(A) 契約保証金は、¥.....とする。

- 2 前項の契約保証金には、利息を付さないものとする。
- 3 第1項の契約保証金は、受注者が契約を履行した後、受注者に還付するものとする。

第4条(B) 契約保証金は、免除する。

（権利義務の譲渡等）

第5条 受注者は、この契約により生ずる権利又は義務を第三者に譲渡し、又は承継させてはな

らない。ただし、あらかじめ発注者の承諾を得た場合は、この限りではない。

(一括委任又は、一括下請負の禁止)

第6条 受注者は、印刷製本の請負を一括して第三者に委任し、又は請け負わせてはならない。

(成果品の納入期限及び原稿の引渡し)

第7条 受注者は、発注者が原稿を受注者に交付した日の翌日から14日以内に成果品を納入するものとする。

(校正)

第8条 受注者は、発注者の校正を校了<sup>こうりょう</sup>、又は責了<sup>せきりょう</sup>まで受けるものとする。

(検査)

第9条 受注者は、印刷製本が完了した場合は、その旨を発注者に通知しなければならない。

2 発注者は、前項の通知を受けた日から起算して10日以内において発注者が指定する日に、発注者の指定する場所で成果品の検査を行うものとする。

3 受注者は、前項の検査に立ち会わなければならない。

4 第2項の検査に合格しなかった場合は、受注者は、成果品を補修し、又は改造して発注者の再検査を受けなければならない。

5 第1項から第3項までの規定は、前項の再検査について準用する。

(引渡し)

第10条 受注者は、前条の検査に合格した場合、発注者は、成果品の引渡しを受けるものとする。

(所有権の移転時期)

第11条 成果品の所有権は、前条の引渡しがあった時、発注者に移転するものとする。

(請負代金の支払)

第12条 受注者は、成果品の引渡しを完了した後、請求書により発注者に請負代金を請求するものとする。

2 発注者は、前条の請求書を受理した日から起算して30日以内に請負代金を支払うものとする。

(遅延利息)

第13条 受注者は、その責めに帰する理由により第7条の納入期限までに成果品を納入しなかった場合は、当該期限の翌日から納入した日までの日数に応じ、請負代金（既納部分に係るものを除く。）の額につき年2.5パーセントの割合で計算して得た金額を遅延利息として発注者に納付するものとする。この場合において、遅延利息の額が100円未満であるとき、又はその額に100円未満の端数があるときは、その全額又は端数を切り捨てるものとする。

2 発注者は、前項の遅延利息を、請負代金より控除するものとする。

(契約の解除)

第 14 条 発注者は、受注者が次の各号のいずれかに該当する場合は、この契約の全部又は一部を解除することができる。

- (1) その責めに帰する理由により、第 7 条の納入期限までに成果品を納入しなかったとき、又は納入する見込みがないと明らかに認められるとき。
- (2) その他この契約に違反し、その違反によってこの契約の目的を達することができないと認められるとき。

第 14 条の 2 発注者は、この契約に関して、次の各号のいずれかに該当するときは、この契約を解除することができる。

- (1) 私的独占の禁止及び公正取引の確保に関する法律(昭和 22 年法律第 54 号。以下「独占禁止法」という。)第 49 条第 1 項に規定する排除措置命令において受注者又は受注者を構成員に含む事業者団体(以下「受注者等」という。)に独占禁止法第 3 条又は第 8 条第 1 号の規定に違反する行為があったとされている場合において、受注者等に対する当該排除措置命令が確定したとき(受注者が当該排除措置命令の名あて人となっていない場合にあっては、当該排除措置命令の名あて人に対する当該排除措置命令のすべてが確定したとき)。
- (2) 独占禁止法第 50 条第 1 項に規定する納付命令において受注者等に独占禁止法第 3 条又は第 8 条第 1 号の規定に違反する行為があったとされている場合において、受注者に対する当該納付命令が確定したとき(受注者が当該納付命令の名あて人となっていない場合にあっては、当該納付命令の名あて人に対する当該納付命令のすべてが確定したとき)。
- (3) 受注者が公正取引委員会から独占禁止法第 66 条第 4 項の規定による審決を受け、当該審決が確定したとき(次号に該当する場合を除く。 )。
- (4) 受注者が、公正取引委員会から受けた審決について、独占禁止法第 77 条第 1 項に規定する審決の取消しの訴えを提起した場合において、その訴えについての請求を棄去し、又は訴えを却下する裁判が確定したとき。
- (5) 受注者又は受注者の代理人、使用人その他の従業者(受注者が法人の場合にあっては、その代表者又はその代理人、使用人その他の従業者)が刑法(明治 40 年法律第 45 号)第 96 条の 6 若しくは第 198 条の罪又は独占禁止法第 89 条の罪を犯し、刑に処せられたとき。

(契約保証金の帰属)

第 15 条(A) 発注者が、第 14 条又は第 14 条の 2 の規定によりこの契約を解除したときは、第 4 条の契約保証金は、発注者に帰属するものとする。

(違約金)

第 15 条(B) 発注者は、第 14 条又は第 14 条の 2 の規定によりこの契約を解除したときは、請負代金額の 100 分の 5 に相当する金額(その額に 100 円未満の端数があるときは、その端数を切り捨てた額)を違約金として受注者から徴収する。

2 発注者は、前項の違約金を、請負代金より控除するものとし、なお不足がある場合は、別に徴収する。

(損害賠償)

第 16 条 発注者は、第 14 条の規定によりこの契約を解除した場合において、前条の違約金又は契約保証金（契約保証金の納付に代えて提供された担保については、当該担保の価値）若しくは履行補償保険の保険金の額を超えた金額の損害が生じたときは、その超えた金額を損害金額として、受注者から徴収する。

第 16 条の 2 発注者は、この契約に関して、第 14 条の 2 各号のいずれかに該当するときは、請負代金の 10 分の 1 に相当する金額（その額に 100 円未満の端数があるときは、その端数を切り捨てた額）を損害賠償金として、受注者から徴収する。

(個人情報の保護)

第 17 条 受注者は、この契約による事務を処理するため、個人情報を取り扱うに当たっては、別記「個人情報取扱特記事項」を守らなければならない。

(暴力団の排除)

第 18 条 受注者は、この契約による事務を処理するため、「暴力団排除に係る特記事項」を守らなければならない。

(協議事項)

第 19 条 この契約書に定めのない事項及び疑義の生じた事項については、発注者と受注者とが協議して定めるものとする。

この契約の成立を証するため、この契約書を 2 通作成し、発注者及び受注者が記名押印の上、各自その 1 通を保有するものとする。

令和 年 月 日

発注者 青森県三戸郡南部町大字平字広場 2 8 番地 1

南部町長 工 藤 祐 直 ⑨

受注者

⑩

## 別記

### 個人情報取扱特記事項

#### (基本的事項)

第1 受注者は、個人情報の保護の重要性を認識し、この契約による事務の実施に当たっては、個人の権利利益を侵害することのないよう、当該事務に係る個人情報を適正に取り扱わなければならない。

#### (秘密の保持)

第2 受注者は、この契約による事務に関して知り得た個人情報の内容をみだりに他人に知らせ、又は不当な目的に利用してはならない。

#### (取得の制限)

第3 受注者は、この契約による事務を行うために個人情報を取得するときは、当該事務の目的を達成するために必要な範囲内で、適法かつ公正な手段により取得しなければならない。

#### (適正管理)

第4 受注者は、この契約による事務に係る個人情報の漏えい、滅失又はき損の防止その他の当該個人情報の適切な管理のために必要な措置を講じなければならない。

#### (作業場所の特定等)

第5 受注者は、受注者の事務所(工場及び発注者の指示又は承認がある場合にあつては、当該指示又は承認に係る場所を含む。)において、この契約による事務に係る個人情報を取り扱わなければならない。

2 受注者は、発注者の承認がある場合を除き、前項の作業場所から、この契約による事務を実施するために発注者から引き渡され、又は自らが取得し、若しくは作成した個人情報が記録された資料等を持ち出してはならない。

#### (目的外利用及び提供の禁止)

第6 受注者は、発注者の指示又は承認がある場合を除き、この契約による事務に係る個人情報を当該事務の目的以外の目的に自ら利用し、又は第三者に提供してはならない。

#### (複写又は複製の禁止)

第7 受注者は、発注者の承認がある場合を除き、この契約による事務を処理するために発注者から引き渡された個人情報が記録された資料等を複写し、複製し、又はこれらに類する行為をしてはならない。

#### (再委託の禁止)

第8 受注者は、この契約による事務を行うための個人情報の処理は、自ら行うものとし、発注者の承認がある場合を除き、第三者にその処理を委託し、又はこれに類する行為をしてはならない

#### (資料等の返還等)

第9 受注者は、この契約による事務を実施するために発注者から引き渡され、又は自らが取得し、若しくは作成した個人情報が記録された資料等は、事務完了後直ちに発注者に返還し、又は引き渡すものとする。ただし、発注者が別に指示したときは、その指示に従うものとする。

#### (従業者への周知)

第10 受注者は、この契約による事務に従事している者に対し、在職中及び退職後においても当該事務に関して知り得た個人情報の内容をみだりに他人に知らせ、又は不当な目的に利用してはならないこと、当該義務に違反したときは個人情報の保護に関する法律（平成15年法律第57号）の規定により罰則が科される場合があることなど、当該事務に係る個人情報の保護に関して必要な事項を周知させるものとする。

#### (実地調査の受入れ)

第11 受注者は、この契約による事務に係る個人情報の適正な取扱いを確保するため、発注者が当該個人情報の取扱いの状況について実地に調査しようとするときは、これを拒み、妨げ、又は忌避してはならない。

#### (事故発生時における報告)

第12 受注者は、この特記事項に違反する事態が生じ、又は生ずるおそれのあることを知ったときは、速やかに発注者に報告し、発注者の指示に従うものとする。

## 暴力団排除に係る特記事項

### (総則)

第1 受注者は、南部町暴力団排除条例(平成23年9月条例第14号)の基本理念に則り、この特記事項が添付される契約(以下「本契約」という。)及びこの特記事項を守らなければならない。

#### (暴力団排除に係る契約の解除)

第2 発注者は、受注者(第1号から第5号までに掲げる場合にあっては、受注者又はその支配人(受注者が法人の場合にあっては、受注者又はその役員若しくはその支店若しくは契約を締結する事務所の代表者))が次の各号のいずれかに該当するときは、本契約を解除することができる。

- (1) 暴力団員(暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律(平成3年法律第77号)第2条第6号に規定する暴力団員をいう。第5号及び第6号において同じ。)であると認められるとき。
- (2) 自己若しくは第三者の不正な利益を図り又は第三者に損害を与える目的で暴力団(暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律第2条第2号に規定する暴力団をいう。以下この項において同じ。)の威力を利用したと認められるとき。
- (3) 暴力団の威力を利用する目的で金品その他財産上の利益の供与(以下この号及び次号において「金品等の供与」という。)をし、又は暴力団の活動若しくは運営を支援する目的で相当の対価を得ない金品等の供与をしたと認められるとき。
- (4) 正当な理由がある場合を除き、暴力団の活動を助長し、又は暴力団の運営に資することとなることを知りながら金品等の供与をしたと認められるとき。
- (5) 暴力団員と交際していると認められるとき。
- (6) 暴力団又は暴力団員が実質的に経営に関与していると認められるとき。
- (7) その者又はその支配人(その者が法人の場合にあっては、その者又はその役員若しくはその支店若しくは契約を締結する事務所の代表者)が第1号から前号までのいずれかに該当することを知りながら当該者とこの契約に係る下請契約、材料等の購入契約その他の契約を締結したと認められるとき。
- (8) 第1号から第6号までのいずれかに該当する者を契約の相手方とするこの契約に係る下請契約、材料等の購入契約その他の契約(前号に該当する場合の当該契約を除く。)について、発注者が求めた当該契約の解除に従わなかったとき。

2 前項の規定により契約を解除した場合の契約保証金の帰属、違約金及び損害賠償については、本契約の規定による。